

□ トピック □ なじみの深い鳥

ツバメの繁殖季節となってきました。南アジアなどで越冬し、日本には春先になると主に九州より北の地域に夏鳥として渡ってきて子育てを行います。昔から人になじみ深く、人の出入りの多い住宅や店舗の玄関や軒先などに巣作りをすることや、水田などの害虫を食べることから益鳥としても知られています。

そんなツバメですが、石川県の調査によると40年前と比べ、成鳥数が約3分の1に減った恐れがあるそうです。東京電力福島第1原発事故で放出された放射性物質の影響が出ているのではないかとという声もあります。旧ソ連のチェルノブイリ原発事故後、ツバメの尾の変形や体の色素の異常が多くなったこと、産卵数やふ化率の減少も目立つようになったことの報告があります。そこで、日本野鳥の会は全国調査を5月10日から始めると発表しました。調査は3年間の予定で、今年7～8月ごろに中間結果を公表する予定です。私たちも一度自然環境の変化について考えてみるきっかけにしてはどうでしょうか？



ツバメ(燕)
スズメ目ツバメ科
学名: *Hirundo rustica*
全長: 15～18cm
分布: 日本全国

□ お知らせ □ ハトの防除

ハトなどによって媒介される病気として、クリプトコッカス症(糞から原因カビが特異的に発生)、オウム病、トキソプラズマ症があります。また、巣からハトジラミ、トリサシダニが発生します。糞害対策だけでなく、こういうことを防ぐためにも、ハトの防除が大切になってきます。

ハトよけ対策として、弊社では『バードアウトシステム』をお勧めします。これはハトが粘性や有機溶剤を嫌う性質を利用したもので、発泡ウレタンに薬剤を塗布する事で、接触したハトに危機感を覚えさせ、そこに営巣していた集団を二度と近寄らせないようにする工法です。この工法は、大抵の場合3～4年以上効果を持続し、1年間の保証期間中に施工場所に再度ハトが営巣した場合には無償で補修施工いたします。ネットや棘など物理的な工法による防除は、設備が破損しない限りハトは営巣できないものの、営巣可能な場所全てに設置しなければならず、破損すると補修が必要なこと、美観を損なうことが挙げられ、一般に発泡テープ法と比較すると、数倍の費用がかかります。つまり、発泡テープ法は物理的防除法と比較して、美観を損なわず、コストパフォーマンスに優れている工法と言えます。是非ご検討ください。また、ご質問やご相談がございましたらお気軽にお問い合わせください。

発泡テープ法



トリサシダニ

□ 豆知識 □ ツバメの能力

ツバメは毎年同じ巣にもどってくると言われています。実際に、巣でヒナを育てている親ツバメに足環を付けて次の年にどこに戻ってきているかを調べたところ、まったく同じ巣とは限らないものの、ほとんどの親ツバメが前年、ヒナを育てた場所の近所に戻ってくるという報告があります。一方、巣立ったヒナは同じ地域へ戻ってくるのが少なく、数%程度のヒナしか戻ってこないようです。これは、ヒナが同じ繁殖地に戻ってきてしまうと親や兄弟と夫婦になる可能性があり、弱い子孫が生まれてしまうことがあるためだと考えられています。

また、ツバメが低く飛ぶと雨という諺があります。これは、ツバメが雨の前に羽化する水生昆虫を狙って、水面に集まることが考えられています。また、雨が降る前は湿度が高くなるので、餌となる小さな虫の体や翅も湿り気をおびて重くなり、高く飛ぶことができなくなります。このため、虫を追いかけるツバメも低空飛行をされると考えられています。ツバメが低く飛んでいるのを見かけたら、天気予報を確認してみたいかがでしょうか？



総合衛生コンサルタント・生物害防除

東洋産業株式会社

URL: <http://www.to-yo-s.co.jp>

本社: 岡山県岡山市北区新屋敷町3-19-20

TEL(086)241-8080 FAX(086)241-8094

拠点: 大阪, 姫路, 岡山, 倉敷, 福山, 広島, 高松, 松山
関東(市川)